

令和6年度第2回 東京都北区いのち支えるセーフティネット協議会 議事要旨	
日 時	令和7年1月22日（水）午後2時～午後3時36分
場 所	北とぴあ 15階 ペガサスホール
出席者	<p>■委員出席者（委員20名うち代理出席3名）</p> <p>竹島 正 委員長  碓井 亘 副委員長  明 英彦 委員  石井 綾華 委員  伊藤 栄 委員（藤森 雅之 委員代理）  上田 文子 委員  大田 裕子 委員  岡村 聡 委員  河西 麻子 委員  儀間 朝彦 委員（稲垣 政美 委員代理）  小池 一博 委員  小林 明夏 委員  佐藤 修 委員（河田 康尚 委員代理）  下里 尚也 委員  関口 久子 委員  西村 由紀 委員  鮎田 栄治 委員  三宅 康史 委員  宮川 祐子 委員  山内 貴史 委員</p> <p>■欠席者（3名）</p> <p>河奈 正道 委員  名取 秀康 委員  畠中 俊明 委員</p>
議 題	<p>1 令和6年度 自殺予防対策における取り組み</p> <p>2 令和7年度 新たな取り組みについて  （1）ゲートキーパー研修・養成研修計画  （2）「つなぐシート」導入に向けて</p> <p>3 その他</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次第</li> <li>● 第2回東京都北区いのち支えるセーフティネット協議会（参考資料）</li> <li>・北区いのち支えるセーフティネット協議会委員名簿</li> <li>・席次表</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲートキーパー手帳</li> <li>・「心のサインに気づいてください」リーフレット</li> <li>・みずべの集い リーフレット</li> </ul>
要 旨	
開 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康部長挨拶</li> <li>・事務局から新委員等の紹介、配付資料の確認</li> <li>・委員長指名による碓井副委員長の選出</li> <li>・副委員長から就任挨拶</li> </ul>
議題 1	・事務局から、資料に基づき、説明後、質疑
議題 2	・事務局から、資料に基づき、説明後、質疑
議題 3	・「自殺」「自死」の用語の取り扱いについて、意見交換
質疑等	<p>■令和6年度 自殺予防対策における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲートキーパー研修参加者の年齢層、属性について教えて欲しい。 (事務局から、普段、地域で相談を受けている方をターゲットに参加しやすい夜間の時間帯に開催し、参加者は比較的高い年齢層の方が多く、男女比の差はなかった、と回答)</li> <li>・リーフレットにLINEによる相談窓口を掲載して欲しい。</li> <li>・ゲートキーパー研修に参加したが、参加者同士で意見交換したり、考える機会のある内容で非常に良かった。</li> <li>・希望者は、区民向け、職員向けの両方のゲートキーパー研修に参加できる機会があると良い。</li> <li>・ゲートキーパー研修自体が研修回数を重ねるごとにブラッシュアップされれば良い。</li> <li>・ゲートキーパー研修は、元来、困難を抱えている方に出会う機会の多い方に自死予防のことを知って対応してもらおう事を基本としているが、日本で自殺対策基本法が出来た時に、啓発の手段としてゲートキーパーを使ったため、いろいろな考え方が混在している。</li> </ul> <p>■令和7年度 新たな取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ始まったばかりで「ゲートキーパー」が区民に浸透するのは時間がかかると思う。あきらめずに着々とやっていくのが良いと思う。</li> <li>・ゲートキーパーをやる方にメンタルストレスがかかると思うので、そちらのケアも考えていかなければいけないと思う。</li> <li>・区民における現在の認知度を教えて欲しい。</li> <li>・ゲートキーパー研修を行っていることを区民にどのように周知しているのか教えて欲しい。</li> <li>・ゲートキーパー研修の目的がもう少し具体的な方がよい。また、目標を立てるのであれば、ある程度数値化を含めて考えた方がよい。</li> <li>・研修は、時間や内容がある程度わかった方が集まると思う。計画の受講者目標数の数が多く、目標どおり集まるのか心配である。</li> </ul>

- ゲートキーパー研修について、最初は受講者が少なくても令和10年度までの計画、4年後を目指してやって欲しい。
- 「ゲートキーパー」という言葉の認知度はあまり上がらない。どういう言葉を使った方が区民に伝わるのか考えても良いのではないか。
- 計画どおりに進まないことはよくあること。何が課題か得られて修正できることが大事なことだと思う。
- セーフティネットがつながる線だけを考えるのではなく、セーフスペース（安全な場所）がどこにあるか、どういうものがあるか、セーフスペースを広げることを考えることも大事なことである。
- ゲートキーパー研修は、特別なものと思われてなかなか参加者が集まらない。一般向けのゲートキーパーというのは、誰でも普段からみんなが生きやすくなるような世の中を作っていくという意識を持っていただくような、そんなもので構成していくと多くの方が自分も聞いてみようかなと思ってもらえるのではないか。
- 専門職のゲートキーパー研修は、自分の職務と同時に危険度をはかりながら専門的な治療や支援につなげていくことを考えなければいけないところも出てくる。
- 北区のゲートキーパー研修は、その後の支援を考えていて稀である。ゲートキーパーをフォローアップする自治体は、なかなか無いので、試行錯誤していくこと自体が他の自治体の参考になるのではないか。
- ゲートキーパー研修をたくさんの教員が受講できるシステムになっていくと良いと感じた。
- ゲートキーパーの知識は、日頃の業務でも生かされるものではないかと感じている。

■（仮称）つなぐシートについて

- このシートは、特に何に気を付けてもらいたいのか。困っていることを紹介するためだけのシートなのか。
- 今何に困っているかだけでなく、その人のどういう所が自殺に結び付きやすい特性なのかを共有することが大事だと思う。その部分を記載する欄がないのではないか。
- 行政の場合、部署が違っていると、どういう相談窓口を設けているか知らないことも多い。最初はそれぞれの部署がどんなことをしているか知っていくことが大事なのではないか。
- すべての部署に対応するシートを作ろうとすると浸透しないという例を他自治体で見してきた。まず一つコアな部署から設定して、そのコアな部署と相談に繋がる頻度が多い部署から始めても良いのではないか。ゆっくり進めて良いと思う。
- 事務局は、他の自治体の対応等を調べて深めていった方がよいのではないか。

- 過去に同じようなシートを使用しようとしたが、浸透しなかった。原因は職員の負担が増えることと思われる。違う方法等を検討した方がよいのではないか。
- つなぐシートは、相談者本人にとって、シートを持って回らずに1カ所で済む方が良いと思うが、その職員にかかる負担、心理的な寄り添いができるかという問題もあり悩ましい。
- 子どもの場合、SNSなどで自分の情報を開示している中で、不特定多数に希死念慮を打ち明けているが特定の他者や相談窓口に打ち明けることは難しい子どもたちもいる。そういう情報を深く知るために、アカウント欄も必要ではないか。
- 子どもや若者の場合、ゲートキーパーに当たる身近な人が相談に来ることも想定するとよい。本人を相談窓口繋いだが失敗した事例（一緒に行こうと誘った、一人で行くことを進めた、一度利用したが継続しなかった）が蓄積されることで、繋ぐことの困難さの実態の解像度が上がり、その背景がよく見えるのではないか。
- つなぐシートの運用は難しいと思うが、このシートが途中で途切れた場合に振り返りを行い、そこで浮かび上がった課題の対策に取り組んで欲しい。

#### ■自殺・自死の用語の取り扱いについて

- 自死遺族当事者として、「自死」という言葉を広げていきたいと思っている。言葉の言い換えにとどまらず、自死、未遂者及び遺族に対する偏見・差別に対する問題を解決する一つの突破口に考えているので、引き続きこの問題を皆さんに考えていただきたい。
- すぐに結論を出す問題ではない。用語の問題は色々な考えがあるので、考えていく事が大事なステップだと思う。どういう対象に何を発信するかで、ここでこの言葉を使うのか、一つひとつ言葉を丁寧に扱っていくことが基本と思う。
- 自傷と自殺未遂は、希死願望があったのかなかったのか、医療の中では登録制度を始めている。きっちり見分けるように診断をつけて治療をしていく。最終的には保険の話、警察関係、本当に自殺なのか自傷なのか、検死の時にも違ってくるので、その辺は意識して気をつけている。

#### ■その他

- 専門家ではない、ごくごく普通の住民感覚で何ができるかを考えることが大事だと考えている。
- 自死対策は、自殺総合対策大綱でうたわれているとおり、追い詰められた末での死という位置づけで人権の問題と感じている。

- 相談する人も支える側もお互いハードルが低くなるようなものになるとより良いと感じた。
- 教育現場でも教職員が一丸となって、子どもたちの声とこころのサインに気づきましょうね、といった働きかけや不安や悩みがあった時にはこういったところに相談しましょうね、という話をしている。
- 最近、保護者の悩みに直面することが増えているので、スクールソーシャルワーカー等と連携して支援している。
- 他の委員の話を聞いて、相談に見えた方への丁寧な対応が大切だと感じた。
- 通常業務以外に相談会を行っているが、相談会に来られる方は、自分の問題が何か分からない方が多く、自分たちのスキルだけでは解決できない相談が多い。いろいろな職種の方の話を聞いて、自分たちのスキルアップをしていきたい。
- 子ども食堂やフードパントリーを運営している。フードパントリーは、希望者が多く、区内の一人親世帯に限定している。生活困窮の話聞く中で、死という言葉をお口にすることもあって、ゲートキーパーの学びは欠かせないと思う。
- 拠点型の活動だけでなく、区と連携してアウトリーチ支援事業を行っているが、ゲートキーパーと同様に普及には至っていないので、継続しながら周知していくことが大事と考えている。
- 区内の経済団体・企業を利用して、区民に周知しても良いのではないかと。
- 他の委員の話を聞いて、その人のバックグラウンドによって、何が嫌で厳しいのかが変わってくることを細かく見ていかなければいけないと思った。
- 近年、外国人の自殺企図が増えてきている。専門機関につなぐ際に、本日配付されたリーフレットを活用していきたい。外国語仕様のものがあれば欲しい。
- 自殺未遂者のケアを行政につなぐ窓口が見えないことが多い。担当者レベルで顔合わせができる機会があってもいいのではないかと感じた。
- 自死対策は、一人の人が全部知っているとかではなく、いろんな人がちょっとずつ知っていることを出し合って、みんなで考えていくことが大事だと思う。
- フォローアップが大事になる。これが本当に良いものなのか、もっと良いものがないか検証していくことが大事だと思う。
- 事業をやるためには基盤が大事になる。具体的にどう行っていくか話し合っていくプロセスが大事になる。
- 最後は地域で受け止めることが大事になってくるので、地域力の向上を考えて欲しい。自分の困っていることを明確に語れる人は多くな

	い。支援を求めることは大変なことで、曖昧に語られているメッセージをどうするか、そこから大事なことを感じ取る等、何かあると思う。
閉 会	